

2018年7月2日

横浜美術館コレクション展

2018年7月14日(土)ー12月16日(日)

「モネ それからの100年展に寄せて」

「幻想へのいざない 駒井哲郎展をきっかけに」

横浜美術館

2018年7月14日(土)開幕の横浜美術館コレクション展は、会期の重なる2つの企画展「モネ それからの100年」「駒井哲郎—^{きら}煌めく紙上の宇宙」と関連し、「モネ それからの100年展に寄せて」と「幻想へのいざない 駒井哲郎展をきっかけに」の2つのテーマで構成します。

クロード・モネ(1840-1926)が活躍した同時代の日本では、チャールズ・ワーグマンなどが来日して外国人の視点で日本の風景や風俗を描いた一方、高橋由一や五姓田義松^{ごせいだよしまつ}など、ワーグマンに西洋のもの^のの見方や絵画技法を学び、対象を忠実に描く画家たちが現れるなど、東西交流による新しい美術が生まれていました。

^{こばやしきよちか}小林清親は、文明開化の街を題材に、西洋の遠近法や陰影法を取り

入れて浮世絵版画に新境地を拓き、開港間もない横浜から発した宮川香山^{みやがわこうざん}の「真葛焼」^{まくづき}は、世界各地の万国博覧会に出品され高い評価を得ました。近代化への活力あふれる時代の日本の美術の一端をご紹介します。

また、モネら印象派の絵画における筆触分割の革新性にも着目しました。のちに筆触や筆の勢いのある動き(ブラッシュ・ストローク)は、表現手段として画家たちの重要な要素となります。抽象画を始め戦後に制作された絵画を中心に、筆触が豊かで力強い画面をもたらす要素であったことをご紹介します。

さらに、今回の「モネ それからの100年」展が、モネの「遺産」に焦点を当てている点に関連させて、古典絵画や既存の作品、あるいは衆知のイメージを積極的に自作に取り入れて自らの解釈で再構成し、オリジナルのイメージを転化させて新たな表現を導いている作品を採りあげました。既成のもの^のの見方に揺さぶりをかける美術家たちの意欲作をご紹介します。

一方、駒井哲郎は、深い精神性と幻想性をたたえた世界を現出させた銅版画家です。駒井哲郎の世界に関連させた、もう一つのテーマは「幻想へのいざない 駒井哲郎展をきっかけに」です。夢幻的な花などをモチーフとする近藤弘明^{こうめい}の作品など、主に現代日本画を中心に、幻想性に満ちた作品群をご紹介します。

写真展示室は、モネと同時代のフランス写真を特集します。

当時のフランスの風景、都市の景観や風俗を捉えた、ウジェーヌ・アジェ、ロベール・ドマシーらの写真をお楽しみください。



小林清親《東京新大橋雨中国》1876(明治9)年
多色木版 21.5×33.2cm 加藤栄一氏寄贈(セクションI)



近藤弘明《寂夜》1966(昭和41)年
紙本着色 124.2×160.2cm 近藤弘明氏寄贈(セクションIV)

展示構成-----

- I 明治 150 年、開国の風景——モネと同時代の日本の美術
- II 筆触、ブラッシュ・ストロークをめぐって
- III イメージの引用と転化
- IV 幻想へのいざない 駒井哲郎展をきっかけに
- [写真展示室] V 特集展示: モネと同時代のフランス写真——都市の風景など



左: 白髪一雄《梁山泊》
1967(昭和 42)年
油彩、カンヴァス
181.0×305.0cm
(セクション II)

右: 福田美蘭《風神雷神図》
2013(平成 25)年
アクリル絵具、パネル
181.8×227.2cm
作家寄贈
(セクション III)



左: 森村泰昌《神とのたわむれ I: 屋下がり》
1991(平成 3)年
タイプ C プリント・彩色、額
348.0×246.0cm
(セクション III)

中: 中島千波《浮雲 A》
右: 中島千波《浮雲 B》
中・右ともに
1971(昭和 46)年
紙本着色 162.1×130.3cm
作家寄贈
(セクション IV)



左: 藤田喬平《飾篋「室町の花」》
1988(昭和 63)年
ガラス(型吹き、腐蝕)、プラチナ箔、銀覆輪
H.14.0×25.5×25.5cm 作家寄贈
(セクション IV)

右: ウジェーヌ・アジェ
《エケヴィリー公の邸宅、テュレンヌ通り 60 番地、パリ 3 区》
1901 年
ゼラチン・シルバー・プリント 23.6×17.7cm
(写真展示室 セクション V)

展覧会のみどころ・トピックス-----**○企画展と関連テーマを設定。コレクション展を通じて、企画展をより楽しむ！**

本展では、モネと同時代の国内作家の作品をご覧いただくことで、東西の美術を比較して楽しんでいただけます。
また写真展示室では、モネが生きた時代のフランス風景などを、写真コレクションからご紹介します。

○森村泰昌初期作品を、11年ぶりに展示。

クラナッハ（父）の《キリストの磔刑》（1503年）を原画とする森村泰昌の比較的初期の4連の大作
《神とのたわむれ》（1991年）が、11年ぶりに登場です。

○11月3日（土・祝）は観覧無料！

2018年11月3日（土・祝）の文化の日は、横浜美術館の開館記念日です。どなたでも展覧会を無料で観覧
いただけます。企画展「駒井哲郎—^{きら}煌めく紙上の宇宙」と合わせてお楽しみください。

関連イベント-----**○アーティストトーク**

登壇 : 中村一美（画家／多摩美術大学教授）
聞き手 : 横浜美術館学芸員
日時 : 2018年7月21日（土）15:00～16:00
会場 : コレクション展ホワイエ、コレクション展展示室
定員 : 50名 ※先着順（事前申込不要）
参加費 : 無料（当日有効の観覧券と整理券が必要です）

○学芸員やエデュケーターによるギャラリートーク

日時 : 2018年7月27日、8月10日、8月24日、9月14日、10月26日、11月9日、11月23日、12月14日
いずれも金曜日、14:00～14:30 *10月26日は15:00～15:30
会場 : コレクション展展示室 参加費 : 無料（事前申込不要、当日有効の観覧券が必要です）

基本情報-----**横浜美術館コレクション展 2018年7月14日（土）～12月16日（日）**

「モネ それからの100年展に寄せて」 「幻想へのいざない 駒井哲郎展をきっかけに」

*展示室休室期間：2018年9月25日（火）～10月12日（金）

会場 横浜美術館（〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-4-1）
TEL: 045-221-0300 FAX: 045-221-0317 <https://yokohama.art.museum/>
開館時間 10:00～18:00
*9月14日（金）、9月15日（土）、11月23日（祝・金）20:30まで（入館は閉館の30分前まで）
休館日 木曜日 *ただし8月16日（木）は開館
主催 横浜美術館
観覧料 一般 500(400)円 大学・高校生 300(240)円 中学生 100(80)円 ※小学生以下無料

*（ ）内は有料20名以上の団体料金（要事前予約）
*2018年11月3日（土・祝）は観覧料無料
*障がい者手帳をお持ちの方と介護の方（1名）は無料
*毎週土曜日は、高校生以下無料（生徒手帳、学生証をご提示ください）
*企画展ご観覧当日に限り、企画展の観覧券でコレクション展もご覧いただけます
*毎月第3月曜日は横浜市在住の65歳以上の方無料（「濱ともカード」をご提示ください）

プレスリリースお問合せ

横浜美術館 広報担当（水谷、藤井、一色）
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1
Tel: 045-221-0319 Fax: 045-221-0317 Email: pr-yma@yaf.or.jp